

配電線工事 ～間接活線工法をサポート～

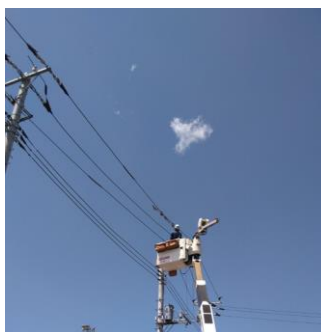
電気工事会社（配電線）では、「作業安全の確保と作業環境の向上」を図るため、間接活線工法の推進と同時に、作業負担の軽減にも取り組んでいます。間接活線工法は長尺の工具を繰り返し用いるため、肩・手首・上腕などへの疲労蓄積が生じやすい作業で、弊社も多くのお問い合わせを受けています。今回、弊社アシストスーツを試行的に導入いただいている企業様のご厚意で、導入に至った経緯と導入後の感想を紹介いたします。

お問い合わせ経緯

- ・ 間接活線工法は、長尺のホットスティックを用いるため、上腕の疲労だけでなく、疲労蓄積が生じやすい作業。
- ・ 作業負担軽減策として、準備が煩わしくない“着用タイプ”のアシストスーツに着目。
- ・ フルハーネス型安全帯の併用は必須。
- ・ 訓練センターにて実作業を想定して、デモ体験を実施後、試行的に導入を決めた。

導入の決め手

作業員から負担軽減の声があり、環境の改善が必要となった。よって、負担軽減の取り組みを進めるため、今回試行的に作業員6台分の購入に至った。



導入後の感想（約3か月経過時点でのアンケート）

Q1.使用中はアシストされている感覚はありますか。

- ✓ アシストされる方向に合わせて使用する必要がある。
- ✓ 柱間切断接続工法には向いていると思う。

Q2.間接作業の皮むきや圧縮作業の負担軽減が期待できますか。

- ✓ 圧縮作業時は負担軽減になりそう。
- ✓ 全体的には使用しているといないでは、負担が軽減されている感じがする。

Q3.脱着方法について。

- ✓ 一人での脱着は慣れが必要。サイズ調整についてもコツをつかむ必要がある。

【今後の方向性について】

新しい取り組みなため、使用する作業員によって善し悪しが分かれる結果に。アシストスーツを着用して作業をするには慣れが必要であるが、コツをつかむことで、「負担が軽減されている」と感じる意見もあり、今後も空調服との併用や下向き作業混在時の扱いなど、定期的に意見交換をして負担軽減に取り組んでいこうと思います（ご担当者様より）。

【ダイドー担当 西より】

慣れが必要であることなどから、違和感を感じられる方もいらっしゃいましたが、使い続けることで負担の軽減効果を感じていただきました。アシストスーツ導入メリットとして、労災の防止効果もございますので、継続利用いただき、蓄積疲労の軽減につながれば、幸いです。